

一類感染症（エボラ出血熱）受け入れ訓練

現在、感染管理認定看護師4名がおり、当院を利用する全ての人を感染から守る役割を担うチーム（ICT）の一員として活躍しています。写真中央の2名が感染対策室専従看護師として、院外からの相談にも対応しています。

当院は、山梨県から第一種感染症の受け入れ施設に指定を受けており、定期的に訓練を行っています。

体制作りから始まり、訓練を重ね、COVID-19を乗り越えて、現実的に受け入れる形になってきています。対応にあたる部署がアクションカードに沿って動くことができるよう、訓練を企画・支援するのが感染対策室の専従看護師です。今年の訓練の様子を覗いてみましょう。



シナリオ：コンゴ共和国のサンクル州に6か月滞在し、10月29日に帰国した（ムウェカから北東に50km程度の町に立ち寄りあり）。同日15時に成田空港に到着し、21時に甲府のホテルにチェックインしていた。夜間から発熱、頭痛、悪寒を認めたため、成田の検疫所に連絡した。
成田の検疫所→厚生労働省→当該保健所に連絡。県庁YCDCを経て、当院に収容要請あり。

【準備】



打合せ



アクションカード

参加者：35名

当該病棟（看護師・補助者）	：16名
感染制御チーム（ICT）	：13名
山梨県感染症対策チーム（YCDC）	：4名
甲府市保健所（保健師）	：2名

平行して
準備



【受け入れ】

受け入れます！

お願いします
実際はアイソレーターで搬送します

検体
..

ゾーニングの図
カードに書いて
おきますか？



検体採取

お疲れ様
介助しますよ

【振り返り】



- ・施設の不備があるため対応が必要
- ・日々の救急カートの点検が大切
- ・多くの人が必要であり人員配置を見直す

- ★具体的な動きを確認出来て良かった
- ★「防護方法を遵守すれば対応可能である」という安心感を持てた